

金木犀その2

2021. 10. 25

日本には四季がある。ところが、春と秋が、どんどん短くなっているように感じるのは私だけだろうか。簡単に言うと、夏が長くなっている。昔は、もっと春と秋を楽しめたような気がするのだが。気候的に過ごしやすい春と秋が短くなっているとしたら、どうであろう。

個人的には、夏の終わりや秋の終わりが好きである。晩夏と晩秋である。夏の終わり、それも夕暮れ時がいい。子どもの頃、夏休みに散々遊んだ後、夕暮れになり、そろそろ「じゃあ、また明日ね。バイバイ」と、家に向かって走り出したことが思い出される。

秋もまた夕暮れ時がいい。何か寂しく切なくなるようなところがいい。かの清少納言も『枕草子』の中で、「秋は夕暮れ」すなわち、秋は夕暮れがいいと言っている。まもなく冬が迫ってくるような気配も何とも言えない。

イタリアは地中海性気候である。1年中、温暖とはいえ、一応四季はある。春と秋が非常に短い。服装を見ると、夏はTシャツだが、冬になると、その上にジャンパーなどを羽織っている。冬でも室内では、Tシャツというのが当たり前である。服装を見る限りでは、夏か冬かしかない。

イタリアにいるときに、いつだったか日本の紅葉が懐かしくなり、短い秋をとらえて山へとドライブに行った。とりあえず紅葉はしているのだが、その美しさは、日本のそれとは雲泥の差であった。やはり、日本の紅葉は素晴らしいのである。まさに、日本の宝である。

その紅葉も、秋が短くなれば、その様相は変わってくるのだろう。紅葉のない秋、紅葉が見れない日本など、考えられない。春の桜、薫風の5月、初夏の新緑、そして、秋の紅葉、行楽の秋、どれも日本ならではの大切なものである。

春も秋も大切な季節である。この2つがあるからこそ、夏と冬が際立つ。日本の四季が日本人の繊細な感覚を育ててきたのだろう。日本人は、季節とともに物事を考え、言葉を紡いできた。季節にかかわる言葉の豊富さが、そのことを物語っている。

金木犀の花言葉はいくつかあるが、その一つに「謙虚」がある。金木犀は、毎年、それこそ謙虚に、わずか数日間だけ、秋の訪れを教えてくれる。来年も、その次の年も、金木犀の日を記録していこうかと思う。